

連続性を意識した幼小中の接続へ

～「幼稚園教育」の視点から～

幼稚園教育ではぐくまれたことが、次のステージ（小学校）にもつながり、さらに積み上げられて、着実に成長する子どもの姿が求められています。

幼小中の連携がさらに効果的に実施されるために、小中学校を意識した幼稚園での取組を紹介いたします。幼小中連携を踏まえた今後の取組についてそれぞれの小中学校で再検討していただければ幸いです。

1 幼児の生活や学びの連続性を踏まえた指導計画の改善・充実

- 小学校の行事等への参加や授業参観など、幼小の連携を意図的・計画的に行っている。
- 保護者とコミュニケーションを取り、家庭・幼稚園の生活の関連性・連続性を踏まえた保育を展開している。
- 幼児による話し合い活動を積極的に取り入れた遊びを工夫し、小学校へのつながりを配慮した保育計画を作成している。
- 「気付き」を大切に遊びを活用し、小学校との接続を意識した保育をしている。

学びは幼児期から始まっています！

幼小の育ちと学びをつなぐ「接続カリキュラム」をつくることが重要になっています。

2 幼児が相手の話を聞き、言葉による思いの伝え合い

- 教師が、人間関係の育ちを意識し、友達との関わりがもてるように支援するだけでなく、幼児自身の表現を促す伝え合いの場を意図的に作っている。
- 幼児が様々な体験の中で、感動したり、友達と心が通ったりする経験を通して自分の思いを言葉で表現する場や機会の確保に努めている。
- 友達のよかったところを言葉を使って紹介するなど、お互いを認め合える学級づくりを意図的に行っている。

心動かされる体験が表現力を高めます！

幼少期の様々な体験が豊かな情操を培い、言葉による表現力を高めます。

3 幼児が主体的に体を動かす心地よさを体験できる遊び

- 園庭にラインを引いたり、体を使った遊びができるよう遊具を工夫したりするなど、幼児に主体的な遊びを促すための環境づくりに努めている。
- 様々な工夫を凝らした環境を考え、幼児が協同して遊べる活動を取り入れ、課題である運動量の不足の解消に取り組んでいる。
- 室内でも十分な運動量が見込める活動を積極的に取り入れている。

運動量の確保が、健全な発育につながります！

幼少期の運動が、健康な体を作ります。主体的に活動する時間と場の確保が大切です。

4 幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の工夫・活用

- 関係機関との連携を図りながら個別の支援計画の改善を図り、指導にあたっている。
- 具体的な指導事例を基に教師相互の意見交換等をしてしながら幼児一人一人のよさや発達を認め、適切な評価をしている。

接続により教育効果が高まります！

幼稚園で築いた習慣を小学校に知ってもらうことが大事です。

小中学校を意識した幼稚園での取組を、さらに生かしていくためには、幼稚園や幼児の実態を知った上で、小中学校での教育活動が進められることが重要になります。生活の連続性や発達、学びの連続性を幼小それぞれの教師が理解し、指導に生かすことがそれぞれの指導の効果を上げることにつながります。行事や授業を参観する交流は盛んになってきましたが、一番大事なのは、教師間の交流だと考えます。もちろん子ども一人一人の情報交換も大切ですが、幼小それぞれの指導観、指導法をお互いがよく理解し、指導の連続性を保つことが大切です。

心動かされる体験が、次の活動の原動力！